

co-op

三重の生協の
今を伝える



No.124

2020年5月

三重県生活協同組合連合会

〒514-0009 三重県津市羽所町379
TEL.059-228-9913 FAX.059-228-9915

報告 役職員研修

なら視察研修をしました。

三重県生協連では、2018年度より役職員の視察研修をおこなっています。昨年は、宮城県に行き、震災を継承していくことの大切さや、事業連帯の強さなどを学ぶ機会となりました。

今年は、1月12日(日)から13日(月)の行程で、16名の三重県生協連理事、会員生協役職員で、「地域の活性と地域包括～災害を契機に行政と地域と生協で築いてきたこと～」をテーマに、奈良県を訪問し、奈良県生協連とならコープのご協力をいただき、「たすけあい・ささえあい・わかちあい」の共同社会をめざした実践を学びました。

▼川上村立ふれあいセンター前にて



奈良県生協連・ならコープの活動報告



あすならホーム恋の窪



ならコープwithローソン
真美ヶ丘店



コープなんごう店



かわかみらいふ/コープ宅配



かわかみらいふ/移動販売車



ハートフルコープよしの吉野事業所
(水の宅配とフリルレタスの水耕栽培)



奈良県での共同社会の取り組みを学ぶことで、日頃からのコミュニティづくりの大切さ、協同組合間や行政、他団体との連携の強さなど、生協の源流に行きついた想いを得た研修でした。

研修を終えて…

- ・さまざまな取り組みの中で、生協の強みである協同の力を発揮し、協同組合間や行政など多様な団体と連携・協力が自然な流れで実現していることに感銘した。奈良県の中で生協の存在意義が大きいと感じた。
- ・あすなら苑では、10の基本ケアを中心に「その人らしく」暮らし続けられるように、さまざまな場面で工夫がされていた。
- ・かわかみらいふでは、人口減少率全国1位という状況の中で、住民の生活現場の実態を生で捉え、大小さまざまなニーズ・困りごとを「みつけ、変えていく」こと、住民自らがそのプロセスに当事者として関わるのがとても重要なポイントだと思った。また、若者が買い支え、高齢者を見守っていく大切さを学んだ。

一人は万人のために 万人は一人のために

生活協同組合
コープみえ

みえ医療福祉
生活協同組合

三重県学校
生活協同組合

三重大学
生活協同組合

三重短期大学
生活協同組合

三重県立看護大学
生活協同組合

三重県労働者共済
生活協同組合

活動報告

食と健康の委員会 学習会

「自分のからだは自分でつくる ～健康なからだづくりの食生活～」



2019年12月9日、食と健康の委員会主催「自分のからだは自分でつくる～健康なからだづくりの食生活～」学習会を開催しました。みえ医療福祉生活協同組合の管理栄養士・岡本良子氏からお話いただきました。

主に、食べ物が身体の免疫力に影響していることについてお話いただき、「腸をきれいにすることで免疫力が6～7割高まる。腸に良い食物繊維、発酵食品等をしっかり摂ることが大切」「免疫細胞を元気にするには、ビタミンA,C,Eが大切」「食事日誌をつけると良い」といった内容を分かりやすく伝えて頂き、食生活を見直すきっかけになった学習会となりました。

参加者からは、「今までバランスの良い食事についてはたくさん聞いてきたが、今回もっと踏み込んだ実際にできること、大切なこと等、免疫力を高めるためにはという視点で聞け、実践につなげることができればと思った」「食べることの大切さや健康なからだをつくるには何が重要かを考える良い機会になった」「発酵食品や乾物を摂取できる日本食は、やはり健康を保つベースになることが改めてわかった」等の声がありました。

食と健康の委員会では、いつまでも健康に楽しく生活が送れるよう、日常生活を見直すきっかけづくりなどの啓発活動をすすめていきます。



三重県食の安全確保のための監視指導計画「令和2年度三重県食品監視指導計画(案)」に対する意見を提出しました。

食と健康の委員会では、毎年、三重県の三重県食品監視指導計画、農畜産物監視安全確保監視指導計画にパブリックコメントを提出しています。今年も令和2年の監視指導計画に対して、輸入食品や食中毒、ジビエ等の野獣食肉の安全性、HACCPについて、青空市などの生産段階に近い食品製造者について意見を要望しました。

支援活動

3.11を忘れない

一地域とスポーツー

被災地のいま

みやぎ生協・コープふくしまから
宮城・福島のいまをお伝えします

第80回 2020年4月5日

復興した馬術場からいつかオリンピック選手を

宮城県仙台市／海岸公園馬術場

仙台市は、津波の被害を受けて人が住めなくなった東部沿岸地域の一部を、スポーツやレクリエーションのできる「海岸公園」として再整備しました。

海岸公園馬術場（以下馬術場）はその一角に位置し、馬とのふれあいや乗馬の機会を市民に提供しています。

馬術場は2001年のみやぎ国体の際、競技会場として新設された場所で、乗馬ファンに長く親しまれてきました。しかし2011年3月11日の震災でその歩みは一旦途切れました。馬術場は津波の直撃を受け、55頭いた馬のうち19頭が犠牲になりました。

所長の木幡良彦さんは、水の引いた13日から他のスタッフとともに馬の捜索にあたりました。「キャンディという馬だけは津波の翌日、施設から少し離れた仙台東部道路で見つけ保護しました。36頭を救出しましたが大ケガをしている馬が多く、他の場所に移して治療しました」。

海岸公園の整備が進み、馬術場が元の場所で営業再開を果たしたのはそれから7年4ヶ月後の2018年7月のことです。オープニングイベントではオリンピック2大会出場の経験を持つ木幡さんが演技を披露した他、津波から生還したキャンディ号の

ひき馬体験が行なわれました。

中口和哉さん（営業部）は「馬術場が再開することで再び地域が盛り上がってくれたらいいなと思いながらオープン準備を進めました」と振り返ります。再開の日は「沿岸部が懐かしくて」という元住民や「馬がどうなったか気になっていた」という人も訪れ、馬術場のスタッフを喜ばせました。

馬術場では乗馬はもちろん、馬のエサやりやひき馬など様々な体験ができます。なかには「ただ見ているだけでもいい」と無心に馬を眺めている人もいます。

「復興が進む沿岸部の風景に心が追いつかないという人も多いでしょう。馬とのふれあいで少しでも前向きな気持ちになっていただければと思っています」（中口さん）。

現在は、馬の生態学習や隣接する冒険広場との連携によるサイクリングロードひき馬体験など子どもたち向けの取り組みも積極的に行なっています。

復興のシンボルともなっている海岸公園に人が集い、馬術場からまた乗馬のオリンピック選手が出る…。そんな夢を語り合いながら木幡さんも中口さんも乗馬の楽しさを広く市民に伝えようと頑張っています。



▲木幡良彦さん（左）と中口和哉さん。「ここは公園なので気軽に立ち寄っていただける。エサをやったり、ひき馬をしたり、より乗馬が身近に感じられる施設にしたいです」。



▲クリーム色のたてがみを持つキャンディ（16歳・メス）はひき馬体験の人気者。津波で生き残った36頭のうちの1頭です。

©海岸公園馬術場（指定管理者・乗馬クラブクレイン）
<https://www.kaigankoen-bajyutsu.jp/>

※2019年3月21日、みやぎ生協はコープふくしま・福島県南生協と組織合同しました。本誌のタイトルも「被災地のいま みやぎ生協・コープふくしまから宮城・福島のいまをお伝えします」に変え、福島県の現状についてもお伝えしていくようにいたします。

活動報告

日米安保条約学習会

安保条約改定60年

「戦後75年、なぜアメリカ軍は未だ日本にいるのか？」

2020年1月20日、三重大学名誉教授の西川洋先生にお越しいただき、平和活動委員会企画「日米安全保障条約について」の学習会を開催しました。

昨年5月に、三重県生協連理事会と平和活動委員会は、沖縄県辺野古への新基地建設中止を求めた意見書を内閣総理大臣宛に提出しました。その後も平和活動委員会では日米安全保障条約について協議し、まずは知ることから始めようと、この学習会を企画しました。

参加者からは、「アメリカとの関係性や、日本はアメリカに従順で軍事だけではなく日米安保条約に軍事協力と経済協力が入っていたのがわかった。日米安保条約について、もっと身近なところで関係していることを伝えなければいけないと思った」「アメリカに依存していることを知り、先生からもそれで良いのかという課題を投げかけられた」「今回の学習会では背景についていろいろ聞けて、つながりがよくわかった。まずは知ることから始めていくのが大切だと思った。伝え方を工夫する必要がある」といった声がありました。

今後、日米安全保障条約について多くの人に周知してもらう機会や、特に沖縄の基地問題では運動や活動に活かせることを考えていきます。



おしらせ

消費者市民ネットワークみえ

- ◆ 昨年度、取り組んだ成年年齢引き下げと契約に関する調査の集約と分析が終了しました。ご協力いただいた高校や行政に報告書を配布し、今後の授業に役立てていただくようすすめています。
- ◆ 第6回世話人会議でWeb会議を導入しました。会議に参加できなかった世話人に参加していただき、今後も積極的にすすめていきます。



▲世話人会議の様子

消費者市民ネットワークみえ
第3回通常総会のご案内

日 時：2020年5月23日(土)
13:30～14:15
場 所：三重県教育文化会館
大会議室

2019年度三重大学人文学部特殊講義「協同組合論」

第15回(1月30日)、青木雅生教授の講義で、全講義が終了しました。今年度の特徴は、13回目にシンポジウム「安心して暮らせる地域づくりと生協」を開催し、組合員の声や顔の見える活動を動画で発信したことから、社会や地域と人とのつながりなど協同組合への理解につながりました。

講義に参加した学生からは、「相互自助の考えの協同組合は必要な存在だが、理解している人が少ないのが課題だと思う。自分が当事者だという意識を持ち、社会をよりよくしていかなければならないと感じた」「私たちの世代が人とのつながりを大切にして、相互自助を行うことで、いろいろな日本の社会問題の解決につながっていくのではないかと考えた」「人とのつながりを実感しながら、コミュニティを強固なものにし、協同組合だけでなく、地域の企業も一緒になって、全体を高めていくことが重要ではないか」などの意見がありました。



シンポジウム「安心して暮らせる地域づくりと生協」



第14回「日本の生協の歴史」日生協 本田会長



たすけあいの輪をむすぶ

こくみん共済

こくみん共済 coop 〈全労済〉

全国労働者共済生活協同組合連合会

coop

こくみん共済 coop 〈全労済〉は、「共済」というたすけあいのしくみを通して、安心できる社会を組合員と共に創る生活協同組合です。

万一の火災・自然災害に備える「社会貢献付 エコ住宅専用 住みいる共済」は、7万件を超える契約があります。そのたすけあいの輪で「こどもエコクラブ」をはじめとした環境活動団体を応援しています。

また、被災した海岸防災林の再生活動や地域の環境活動団体への助成などもおこなっており、これからも地域の皆さんと共に「環境保全活動」に取り組んでいきます。

三重県生活協同組合連合会 上野会長理事 (連載)

南原繁のこと

南原繁は、平和主義者である。彼は戦後の日本の、第15代目の東大総長として、戦後日本の混乱期に日本が進むべき理想の灯を照らした人物であった。彼はまた、日本における知の巨人の一人でもあった。

近年、南原について書かれた二冊の本が出版された。立花隆編『南原繁のことば』と村木嵐著『夏の坂道』である。

いま、私がなぜ南原繁かという問いかけをしたかに答えなければならない。そのために、少しでも『夏の坂道』に立ち入ってみよう。紙幅の関係上、一点のみにとどめる。

南原繁の人生観は、真理と自由である。南原はよく述べていた言葉がある。「真理と自由こそ、国家がその存在をかけても守らなければならない理想だ」(357頁)。そして、この言葉に続き、「一人の人間として真理を愛し、自由を尊い、いついかなるときもそれに味方する人格へと成長することだ」(同上)と、結んだ。なんと大きなスケールであろうか。

最後に、私が南原繁への関心をもったきっかけも書き留めておきたい。かつて私は、津市内にある市立三重短期大学学長を2期6年間勤めた。その大学の応接室に一枚のおおきな額がかかっているのだが、それには中央におおきな墨字で「真理」と読める字と右端に昭和30年南原繁と読める署名がある。この額はいったい誰が何のために置かれたのであろうか。記録はない。

私は、南原繁と短期大学とのつながりを調べてみたが、学長在任中には不明であった。(この度は、村井美代子学長のご配慮により、前記の額の写真を撮ることができた。謝辞を申し上げたい。)



おしらせ

ハート平和行進のご案内

ハート平和行進は、2020年6月15日に開催を予定していましたが、国民平和行進三重県実行委員会及び三重県原爆被災者の会と協議を重ね、今年は新型コロナウイルス感染症の今般の状況から、中止としました。



来年の行進は、
今年の分も一緒に歩きましょう！



三重県生活協同組合連合会 第44回通常総会のご案内

日 時：2020年6月24日(水) 13:00～15:00
場 所：三重県教育文化会館 大会議室

第44回通常総会の議題

- ・第1号議案／2019年度のまとめと決算報告
ならびに剰余金処分案の件
- ・第2号議案／2020年度活動方針と予算案決定の件
- ・第3号議案／役員報酬決定の件
- ・第4号議案／役員選任の件